

事務連絡
令和5年11月1日

各区長 様

三木市人権推進課
課長 平井 隆禎

第40回総合隣保館文化祭のチラシ等の回覧及び
ポスターの掲示について（依頼）

向寒の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

日頃は、隣保館事業及び男女共同参画推進事業に格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、総合隣保館文化祭につきましては、新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、令和5年12月10日（日）に開催いたします。

つきましては、多数の方にご来館いただきたく、お手数をおかけしますが、チラシを回覧いただくとともにポスターの掲示についてご協力をお願いいたします。

また、「こらぼ一よ第66号」及び「隣保館だより11月号」の回覧につきましてもご協力いただきますよう、重ねてのお願いで恐縮ですが、よろしくお願いいたします。

記

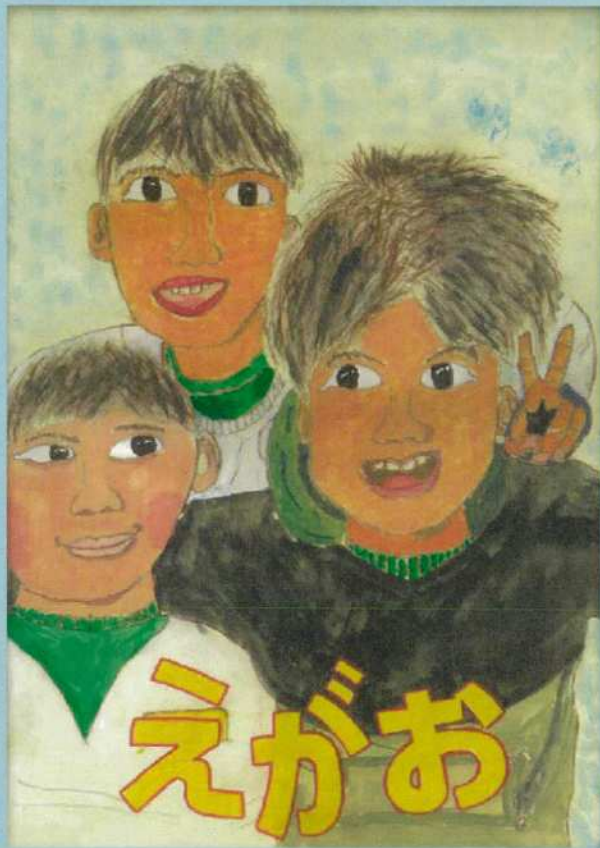
- | | |
|------------------|---|
| 1 配付物 | チラシ、ポスター、啓発紙 |
| 2 ポスターの
掲示等期日 | 12月11日（月）まで |
| 3 問合せ先 | 三木市人権推進課
担当：(1)文化祭について・・・藤田、福寄
(2)「隣保館だより」について・・・澤田、橋田
(3)「こらぼ一よ」について・・・石田
電話：(1), (2)・・・82-8388
(3)・・・89-2331 |

第40回

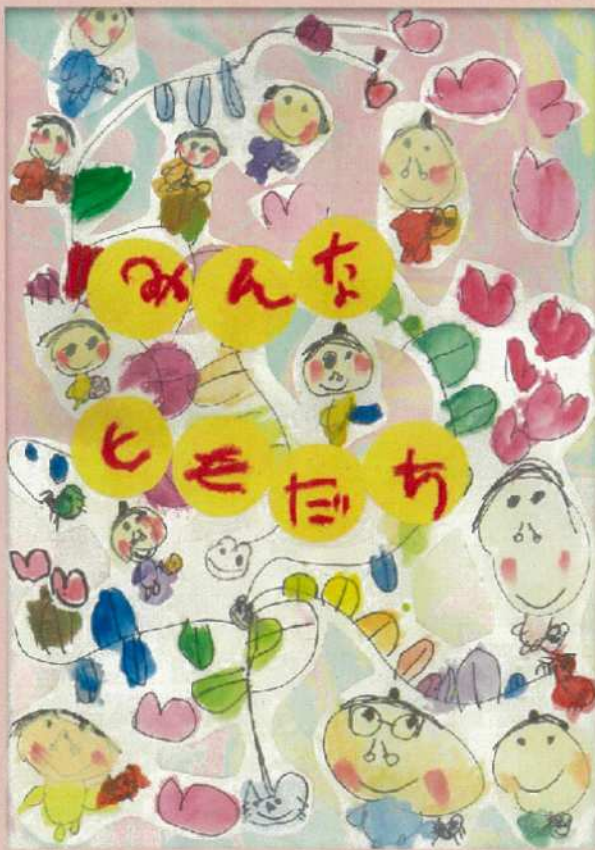
総合隣保館

文化祭

つなごう
手と手
築ごう
心のかげ橋を



緑が丘小学校 5年 イシカワ ソウタロウ 石川 漢太郎さん



志染小学校 2年 フジモト モカ 藤本望叶さん

志染町吉田 823 TEL: 82-8388

会場 三木市立総合隣保館

12月6日(水)~12月10日(日)

作品展示

9:00~21:00

※10日は15:30まで

場所 2階及び1階ロビー周辺

12月10日(日) 12:30~15:30

記念講演等

- 開会行事 12:30~
- 舞台発表 13:10~
- 記念講演 14:00~15:30

演題「ネガティブは駄目、ポジティブでいこう」

一人権・同和教育メッセージを少し変えるために

講師 解放社会学研究所 所長 江嶋 修作さん

抽選会

15:30~

※記念講演終了後

場所 1階大会議室

〔主催〕 三木市立総合隣保館文化祭実行委員会

〔後援〕 三木市教育委員会／三木市人権・同和教育協議会／志染地区人権・同和教育推進協議会

2023
11月

～広がれ人権ネットワーク～

No.508

三木市人権啓発紙

隣保館だより



テーマ：高齢社会を生きる

「隣保館だより」ホームページ（カラー版）
URL=<https://www.city.miki.lg.jp/site/sougourinpokan/>



QRコード⇒

「誰か」のこと？いいえ、「私」のこと！

～年齢を重ねても安心して明るく暮らせる社会を～

内閣府の世論調査（右図）で、「高齢者に関し、人権問題だと思ったこと」の問いで多かった回答は、

- ①「悪徳商法、特殊詐欺の被害が多いこと」（44.7%）
- ②「病院での看護や介護施設において劣悪な処置や虐待を受けること」（33.6%）
- ③「高齢者が邪魔者扱いされること」（31.7%）でした。

三木市においては、人口の3人に1人が65歳以上の高齢者となっています。高齢者の人権問題は自分には関係のないことと思っても、高齢は避けられません。必ず直面する「自分事」なのです。高齢者が被害にあたり社会から排除されたりすることのないよう、地域や職場、家庭において多世代交流を積極的に進め、相互の人権を尊重する心を育てていくことが大切です。

そして、高齢者をはじめ、全年代の人たちが持てる力を発揮し、多方面で活躍できる「エイジレス社会」を実現しましょう。



(c) こゆり

内閣府「人権擁護に関する世論調査」(令和4年8月調査から)

高齢者に関し人権問題だと思った事
複数回答 (%)



次ページ「人権の小窓」の紹介

★「高齢社会を生きる」をテーマに、3人の方にご寄稿いただきました。

- 「高齢者問題？を考える」(三木市社会福祉協議会会長 植田吉則さん)
- 「チャンス到来 ハッピーライフ」(小林伶子さん)
- いろいろな出会で元気な今がある(三木市老人クラブ連合会会長 西田博之さん)

会場 三木市立総合隣保館

12月6日(水)～12月10日(日)

作品展示 9:00～21:00
※10日は15:30まで

場所 2階及び1階ロビー周辺

12月10日(日) 12:30～15:30

記念講演等
●開会行事 12:30～
●舞台発表 13:10～
●記念講演 14:00～15:30

演題「ネガティブは駄目、ポジティブでいこう」
一人権・同和教育メッセージを少し変えるために

講師 解放社会学研究所 所長 江嶋 修作さん

抽選会 15:30～
※記念講演終了後

場所 1階大会議室

総合隣保館文化祭は、多くの人が人権と差別について学び、交流する文化の祭典です。豊かな人間関係と人権を大切に作る共生の社会を築き、共に人権文化を創造していくことを目的に開催します。記念講演や作品展示、抽選会もあります。お誘いあわせの上、お気軽にご参加ください！





人権の小窓

高齢者問題?を考える ～市社協の事業を通して～

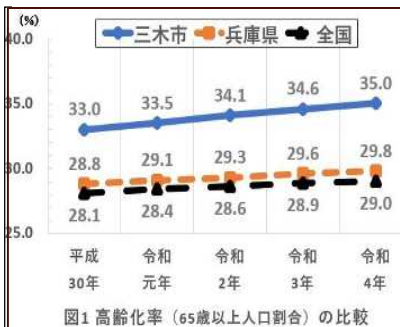
三木市社会福祉協議会 会長 植田 吉則

増え続ける高齢者

三木市の高齢化率(令和4年9月30日時点)は35.0%で、国や県のそれを上回って推移しています(図1)。日本の高齢化率は世界トップですから、本市の高齢化率は世界の国々の中でも先頭集団を走っているといっても過言ではありません。

誰もが年を重ねるにつれ、身体の筋力は衰え、様々

図1 高齢化率(65歳以上人口割合)の比較



な認知機能も低下します。転倒リスクも増え、寝たきりや車椅子の生活になる確率も高まります。すなわち、支えられる側になるケースが多くなるのです。本市の高齢者

夫婦のみの世帯の割合は、国・県と比べると高く、高齢者単身世帯の割合も、令和2年には、ほぼ同水準となっています。様々な支えを必要とする高齢者が年々増加しているのが現実です。

高齢者を支える「元気高齢者」

私は、この現状をネガティブにではなく、ポジティブに捉えるようにしています。健康寿命の延びに見られるように、年を重ねても、元気に農作業や運動、趣味を楽しんでいる、いわゆる「元気高齢者」が年々増えているのも確かです。現在、三木市社会福祉協議会(以下、市社協)では、こういった「元気高齢者」の皆さんのマンパワーを活用して、高齢者をサポートするいろいろな事業を展開しています。

◎「高齢者ファミリーサポートセンター」

市社協の運営している市の受託事業で、依頼会員を協力会員が支えるというシステムです。内容は、買い物や部屋の片付け、庭の草むしり、電球の付け替え等、多岐にわたりますが、担当職員が依頼会員と協力会員のニーズを聞き取り、マッチングをしています。平均年齢

【筆者プロフィール】 植田 吉則

三木市立小学校教員として37年間勤務。
2015年3月市内小学校長定年退職。同年4月から兵庫教育大学教育実習総合センターで3年間勤務。2018年6月から現職。

は依頼会員82.9歳、協力会員67.2歳と、まさに高齢者が高齢者を支えています。支援員さんの平均年齢は72.9歳で、いつも元気に支援活動をしてくださっています。

◎「日常生活自立支援事業」

障がいや認知等の問題により、ご自身での金銭管理に不安を感じられている利用者さんの通帳を市社協が預かり、定期的に支援員さんが訪問し、金銭管理の手伝いをするという仕組みです。

◎「移送ボランティア」

高齢や障がい等により自力での歩行が困難な方の送迎を支援する事業です。

◎「育児ファミリーサポートセンターボランティア」

育児の相互援助活動を行う会員制の組織です。

支援員さんの声

あるとき、ある支援員さんが笑顔で私に、

「利用者さんの家に行って、話をするだけでも、こちらが元気もらうことが多いわ!」
と話してくださいました。この方のように、高齢者を支えながらも、支えられる高齢者から逆に元気づけられているケースも多いのではと感じています。

高齢社会のキーワード

高齢者問題がテーマの講演会で、講師先生が「支え上手は支えられ上手なのですよ。」と言われたことが今も私の心に強く残っています。人を支えた経験があるからこそ、自分が支えられる側になった時、どのように「ヘルプ!」のサインを出せば上手く支えていただけるかが分かるということです。

高齢者だけでなく、地域で暮らす多様な人々が、互いに支え、支えられる関係をどんどん創り、増やしていくことによって、肩車型社会を克服する地域共生社会が必ず創造できると信じています。

(図1は、第1回三木市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定検討部会会議資料を基に筆者が作成。)



ハートフル コラム

チャンス到来 ハッピーライフ!!

小林 伶子

傘寿を目前にしていますが、後期高齢者という言葉には少し抵抗を感じます。前期・後期の次は末期?まるでこの世の終わりみたいと嫌な感じになってしまうのです。そうは言っても、私は後期高齢者の真っ只中、今の生活を振り返ってみました。

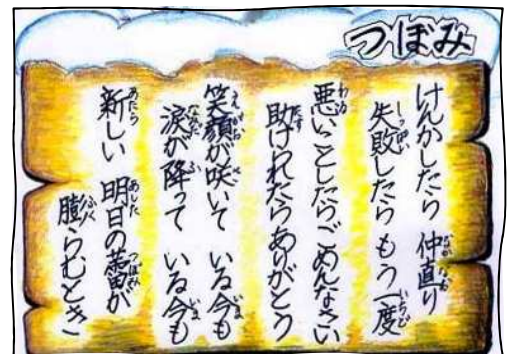
まず、朝寝・昼寝・夕寝は思いのまま、都合の悪い時は聞こえないふり、友人とお茶しながら何時間もおしゃべり、温泉通い。さらに60の手習いで始めた英会話や韓国語は今も継続中。コミュニティスクール(コミスク)の協力と称して地域の学校をウロチョロ、認知症サロンや手作り絵本の読み聞かせのボランティア等々…。毎日のように「きょういく」(今日行くところがある)と「きょうよう」(今日用がある)で、もりだくさんの日々です。

そこで、私は「後期高齢者」を自由気ままな生活ができる「好機幸齢者」と換えてみました。

そうなんです。仲間のみなさん、チャンス到来(好機)、ハッピーライフを楽しみましょう。

小林伶子さんプロフィール

1944年 秋田県生まれ
1966年~三木市小学校教員(34年間)
(市内内小学校長5年間)
2002年~人権教育指導専門員
主任児童委員、隣保館運営委員・三同教企画運営委員を歴任



いろいろな出会いで元気な今がある**

三木市老人クラブ連合会 会長 西田 博之



私は現在 83 歳。私の「仕事」と言えば、三木市老人クラブ連合会や地域の老人クラブのお世話です。肩書は重く、市内、県内のイベントなどで休む暇がないほどですが、多くの方々との交流の中で笑顔をいただきながら、お陰様で元気に過ごしています。

私は高知の生まれで、30 戸ぐらいの集落に育ちました。都会に憧れていた私は 18 歳の頃、従妹の夫の誘いを受け、神戸の従妹の家に下宿させてもらい、田舎から出稼ぎに来ていた叔父の知人の紹介で就職できました。この時ほど故郷や親類の皆さんにお世話になった有難さが身に染みたことはありません、今の私の原点です。再雇用を含めこの企業で47年間懸命に働き、社員や多くの人との交流の必要性を学びました。

昭和50年に神戸から緑が丘町に転宅。地域になじむため長男が入部した少年野球チームのコーチを引き受けました。また地域のソフトボール同好会にも参加し、そこである親子と出会い、障がいのあるお子さんの親の気持ちを知ることもできました。

青山地区に転宅して、平成 3 年に自治会の立ち上げに参加、平成 6 年から民生委員児童委員を21年間やらせていただきました。登下校を見守る「人の目の垣根隊」の活動は今も続けています。自治会の素晴らしいリーダー、垣根隊で知り合ったダウン症のK君など、地域活動におけるたくさんの人との出会いは今も忘れられません。

地域活動が減少し、人間関係も希薄になったと感じる昨今、これからいろいろな出会いを大切に、人生 100 歳まで元気に生きる。これが今の私の目標です。





(C) こゆり

隣保館カレンダー

11月

日	曜	催し・講座など	日	曜	催し・講座など
1	水	経営・職業相談 10:00～	16	木	人権相談（三木市役所）13:00～16:00
2	木		17	金	経営・職業相談 10:00～
3	金	文化の日	18	土	三同教研究大会 13:30～ 教育センターほか 茶道教室 13:30～
4	土	きらきら書道 13:00～	19	日	
5	日		20	月	
6	月		21	火	経営・職業相談 10:00～
7	火	経営・職業相談 10:00～	22	水	
8	水		23	木	
9	木	手芸サークル 13:30～ 人権相談(吉川支所)	24	金	経営・職業相談 10:00～
10	金	経営・職業相談 10:00～	25	土	全国人権・同和教育研究大会（1日目） (明石市、神戸市ほか)
11	土	茶道教室 9:00～	26	日	全国人権・同和教育研究大会（2日目）
12	日		27	月	エアロビクス 14:30～15:30
13	月	エアロビクス 14:30～15:30	28	火	経営・職業相談 10:00～
14	火	経営・職業相談 10:00～	29	水	
15	水		30	木	手芸サークル 13:30～

人権フィールドワーク参加募集

主催：三木市人権・同和教育協議会、人権推進課
「ウトロ平和祈念館」「清水寺周辺人権の地」



京都市宇治市ウトロ地区。
1940年から「京都飛行場建設」に集められた在日朝鮮人労働者たちの飯場跡に形成された集落に建つ平和祈念館での学習



京都の文化の創造・発展に寄与した被差別民衆の生活史がうかがえる名刹、名庭、史跡をガイドボランティアの案内で巡る人権学習

- ◆ 実施日 2024(令和6)年1月27日(土)
 - ◆ 集合 午前7時50分 ◆ 定員 40名(先着順)
 - ◆ 参加費 2,500円
 - ◆ 募集期間 2023年11月6日～2024年1月9日
 - ◆ 申し込み 電話・メール・FAXにて受付
- 三木市人権・同和教育協議会 TEL (0794) 82 - 8388
FAX (0794) 82-8658 Email:sandoukyo@ns.miki.ed.jp

人権クイズ 高齢者編

三木市では、高齢者の健康づくりをサポートするいろいろな体操を作成しています。その体操の名前はなんでしょう。○の中に文字を入れてください。

- 第1問:日常生活に必要な筋力や体の動き、バランスなどを身につけることができる、
「みっきい☆○○○○体操」
- 第2問:膝を支える筋力をつけることができる、
「みっきい☆○○体操」(漢字2文字)
- 第3問:しっかり噛む、飲み込む力を保つことができる「みっきい☆○○○○体操」

答え:1=「いきいき」2=「健脚」3=「にこにこ」です。
※ 現在市内で自主的に体操を行っている教室(みっきい☆いきいき体操自主教室)は116あります。近くの教室を教えてください。新たに教室を立ち上げたい方は三木市介護保険課まで。ホームページで動画を視聴できます。またDVDの貸し出しもしています。
問い合わせ TEL 0794-82-2000(内線2349)まで。

人権啓発紙「隣保館だより」11月号 (毎月1日発行)
令和5年11月1日発行三木市市民生活部人権推進課編集
〒673-0501 三木市志染町吉田 823
三木市立総合隣保館 TEL 82-8388 FAX 82-8658
E-mail:jinken@city.miki.lg.jp

～市民がつくる～
三木市男女共同参画センター情報誌

こらぼよ



こらぼよとは
Collaboration
コラボレーション
(共同・協働)と
～しようよの組合せ

みんなで
男女共同参画社会実現
に向けて活動しようよ

第66号 2023・秋

秋号のテーマは
身の周りにおけるマイクロアグレッション(小さな攻撃)



主夫日記Ⅳ

「マイクロアグレッション」を防ぐには？

家を快適に整えるのは母の役目なの？

令和5年度男女共同参画週間記念講演会レポート

職場で起こる「マイクロアグレッション」について

*** 弁護士による法律セミナー ***

テーマ：“Yes 以外は全て No!” の認識を
～性犯罪規定の改正で何が変わったのか～

日時：令和5年11月22日(水)10時～11時30分

場所：三木市立教育センター4階 中研修室

講師：吉倉 美加子さん(弁護士)



11月12日から25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。夫・パートナー等からの暴力、性犯罪、セクハラ、ストーカー行為等、女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するもので、男女共同参画社会を形成していく上で克服すべき重要な課題です。



女性に対する
暴力根絶のための
シンボルマーク



近頃よく耳にする「マイクロアグレッション」とは？
小さいを意味する(マイクロ)と攻撃を意味する(アグレッション)を組み合わせた言葉です。
今回はみんなで考えてみました。

主夫日記Ⅳ「マイクロアグレッション」を防ぐには？

こんにちは。いつも主夫日記におつきあいいただきありがとうございます。今年の夏は普段の夏より暑かった気がします。お元気でお過ごしでしょうか？夏の間は野菜が高くて困ったものです。そんな時、食事の準備を助けてくれるのはスーパーマーケットのお惣菜です。

よく買うお惣菜は、ポテトサラダ、から揚げ、コロッケなど。作るのに手間のかかるもの、後片付けに手間のかかるものはとても助かります。

何年前か、SNSを中心にスーパーマーケットの惣菜売り場での出来事が話題になりました。

幼児連れの女性に対して、ある高齢男性が「母親ならポテトサラダくらい作ったらどうだ」と言ったのだとか。

これは、自分よりも若い女性に、上から目線の考え方を押し付ける行為です。SNSの内容だけでは詳しくはわかりませんが、高齢男性は幼児連れの女性の事情は全く考えていないように感じます。



私たちは、「家事は女性の仕事」、「男性は働いて家計を支えなければならない」といった性別の役割分担の思い込みや、さまざまな偏見により、日頃の言葉や表情、行動の中でささいな攻撃をしてしまっていて、それを「マイクロアグレッション」と言うそうです。

「マイクロアグレッション」の定義は学者(研究者)によって諸説ありますが、兵庫県立男女共同参画センターのセミナー案内の記者発表資料(2023/6/9)では次のように書かれています。【意図的か否かにかかわらず、疎外された集団(個人)に対して、日常の何気ない偏見や差別に基づいて現れる見下しや侮辱、否定的な態度で、精神医学や臨床心理学の分野で定義されている術語】

では、マイクロアグレッションはどんな影響を与えるのでしょうか？たとえば、「女性なのに・・・」という言葉ですが、「悪意では言ってないはず」という思いと、「その決めつけている考え方に意見を言いたい」という思いが心の中で行き来する「もやもや」とした状態になるそうです。そんな「もやもや」が繰り返されることで精神的ダメージを被るのだとか。

誰にでもさまざまな思い込みがあり、さまざまな場面で「マイクロアグレッション」は起きてしまうものです。それを防ぐためには、社会的に弱い立場の人のことを知ることで、自分自身はどのような思い込みがあるのかに目を向けることが必要です。また、相手の反応に敏感になること、相手が意見を言える姿勢でいることも大切なのだそうです。

私も自分の態度に気をつけなくては。最後までお付き合いいただきありがとうございました。

(編集委員：I)



家を快適に整えるのは母の役目なの？

本当に小さなことなのですが、私にも「え？それお母さん（私）だけのせいじゃないよね？」という経験があり、結構いつまでも根に持っていることがあります。

我が家の台所のガスコンロには、単一の電池が入っています。コンロを点火するために必要で、安全装置を作動させる役目もあるようです。

この電池が切れかかり、ガスコンロの「電池切れお知らせマーク」がしばらく前から点滅していました。点滅していたのは確かに私も知っていました。でも家族みんなが知っていたはずです。

私も「そのうち誰かが交換する？」と思っていたのも事実です。そして、いよいよ電池が切れ、点火しなくなってしまったときに、家族みんなが、「お母さん、電池切れたよ！ちゃんと交換しといてよ！」と、私に言ったのです。

「え？お母さんのせい？みんな電池が切れかかっているの、知ってたよね？」と、聞くと「そういうのはお母さんの仕事でしょう？」と言うのです。

家の中で電池が切れそうなものを交換するのはお母さんの仕事？

なくなったトイレトーパーを棚から出して補充するのも？

ゴミ袋がなくなりそうだったら買いに行くのもそう？

ちゃんと家の中を快適に整えていないと、お母さんは責められるものなの？

「そういうのは、気づいた人がやればいいやん」とだけ言い返し、しばらく悶々としてしまいました。

共働きでも、家のことを整えるのはお母さんの仕事でしょと決めつける思い込みに今でも小骨が引っかかったような違和感があります。

ただ、ガスコンロの電池は安全装置を作動させるためにも必要なら、ちょっとこれからは気をつけよう、とも思っています。



(編集委員：O)



ジェンダーレンズで何が見える？～誰もが生きやすい私たちのまち～

令和5年7月2日：男女共同参画週間記念講演会レポートより

男性学の研究で知られる京都産業大学教授 伊藤公雄さんの「男女共同参画～男らしさの呪縛からの解放をめざして～」を受講しました。

明治以降の日本は「男性主導社会」だったが、近年は経済的、社会的、文化的な変動で「当たり前」だったジェンダーの構図が変化したことや男性だからと課せられてきた重圧等にスポットを当てた内容でした。

「これまで、男らしさの呪縛を感じたことはなかったが、実は家族を犠牲にしたり、自分を犠牲にしたりして生きてきたのだと気づき、あれが無意識の呪縛だったのかと思った」との男性受講者の感想が印象に残りました。

受講者の年代は現役世代が半数以上でしたが、男性は全体の2割弱と少なかったことが残念です。男女共同参画社会は男性の生きづらさも軽減する社会であるということをもっと多くの男性に知っていただけたらと思います。

(編集委員：K)

職場で起こるマイクロアグレッションについて

誰もが気持ちよく働ける環境をつくるには、仕事をするにあたり、自分らしく働けることが人権尊重の根幹と考えます。自分の力・スキル・経験値を正に評価され認められること、また、職場内で無意識の偏見(アンコシャスバイアス)についての研修等を行うことが重要です。

職場内で起こる小さな攻撃は、会話・行動・態度等に多く見られます。女性社員に対して「女性は遅くならないうちに帰ったほうがいいよ」とか、男性社員に対して「男性にしては字がキレイだね!」と言ったり…そんな場面はないでしょうか？



仕事という利害関係が発生する中で、相手に対して事実のみではなく、自分の価値観・印象を交えて発言し、知らないうちに相手を傷つけていませんか？

人は一人で生きていくことは出来ません。日頃から相手がその言葉・態度を受けてどう感じているか想像できる人権感覚を養う努力が必要です。

自分の何気ない言動で相手を傷付けることがないように、普段から自分の発信が小さな攻撃(マイクロアグレッション)になっていないか考え、誰もが気持ちよく過ごせる環境づくりに努めましょう。

(編集委員:T)

**** 今後の男女共同参画センター主催の講座 ※ 事前申込が必要 ****

テーマ	講師	日時	会場
とも 男女に学ぼう防災	斉藤 容子さん	R6.2.4 10~11:30	青山公民館
夢をかなえる ~女子野球監督として~	橘田 恵さん	R6.2.15 14~15:30	志染町公民館

三木市男女共同参画センター
愛称 “こらぼーよ”
三木市福井 1933-12
三木市立教育センター 3階
TEL&FAX : 0794-89-2331
開館日時: 月曜~金曜 9時~17時
(※祝日を除く)

企画・編集: 情報誌 “こらぼーよ” 編集グループ
発行: 三木市男女共同参画センター



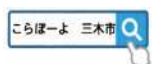
編集後記



わたしたちは知らず知らずのうちに人を傷つける言葉を発することがあります。「あれも差別、これも偏見と言われてしまうと何も話せなくなる」との意見もあります。

ではどうすればいいのか？最近受講したセミナーで「自分も知らない間に人を傷つけている」と自覚すること、反省すること、知識をアップデートすること、むしろ、完璧である必要はないと学びました。これらを頭の片隅に置いて日々過ごしていけたらと思います。

(編集委員:K)



ホームページからも
ご覧いただけます

